

## 高山幸嗣・筑豊太平石油社長に聞く

## 免許返納をサポート

免許を更新できない。免許を交付された人が責任を持って運転する分には構わないと思う。返納したいと考えている方に寄り添い、手続きに立ち会うというスタンスで行っている。

## シニアカーは売れる

事業の内容としては、返納の手続きや必要書類、返納者に自治体が行っている支援などを説明し、対象者をサポートする。1回に要する時間は約3時間。

飯塚市の場合、65歳以上の返納者への支援として、コミュニティー交通回数券とタクシー乗車券、ICカード乗車券の中から1つもらうことができる。申請には期限があるので、それまでに手続きをするよう案内している。

乗らなくなった車の買い取りや廃車手続きも行っている。シニアカーを販売しているSS事業者は少ないと思うが、実はこれが売れる。車関連以外のビジネスへの広がりも期待できる。事業化に当たってコストは大してかからない。

当社で給油する人がいなくなるわけだから、減販に直結するが、対象者の家族からは感謝され、そこから新たなビジネスの道が開けることもあると思う。

取り組みが行政に伝わって、対象者を紹介してもらおうケースが出ている。諸機関との交流を深め、しっかり連携していきたい。

筑豊太平石油(福岡県飯塚市、高山幸嗣社長)は運転免許証自主返納のサポート活動を行っている。高齢者に寄り添い、安心・安全の地域作りに貢献する。

## 高齢者に寄り添い

以前義父(妻の父)が免許を返納した。返納にいたるまでの過程は平たんではなく、本人の心の中に葛藤があったようにうかがえた。はたで見えて、一言

で免許返納とは言うものの大変だと感じた。日常車を運転していた人が運転できなくなるのもそうだが、それ以前に返納の手続きや、関係機関に足を運ぶことが高齢者にとっては負担になっていると感じた。

自動車事故の件数自体は若年層が多いと思うが、高齢者の逆走やアクセルとブレーキの踏み間違いなどがメディアで報道され社会問題化しているのは事実。事故が起こると、被害者とその家族はもとより、加害者側も精神的にダメージを受ける。義父もそのような事故のニュースを見るたびに、免許を返納して良かったと話している。悲



惨な事故を少しでも減らすことが、車に関わる仕事をしているわれわれの使命であり、社会貢献につながると考えた。当社を利用して下さるお客さまに感謝すると共に、最後のご奉公をしようということでサービスの一環として始めた。

対象者に返納を強要するものではない。そもそも高齢者講習や認知機能検査、運転技能検査が実施され、不適格となると

きつくばらん